

社会教育実習支援ネットワークの構築と 実装戦略



出川 真也(大正大学)

全国社会教育職員養成研究連絡協議会(社養協)

社会教育実習支援ネットワークWG事務局長

大学における社会教育研究者の特徴・素質と役割について考えること（月刊社会教育2019年5月号掲載原稿から）

【特徴】

①アカデミズム的でない側面

社会の現象的動向から離れて純粹に学問的立場をとる、
ということはない

②アカデミズム的な側面

理念と理想の追求において、現実の政治経済的圧力と
妥協しない批判的精神態度を固く保持

社会教育実習の本質的要素！

【素質】

- ①現場と学生の双方の力になろうとする
- ②現場や学生とのかかわりを通じて自分自身も成長発達していこうとする
- ③常に自身の研究・教育・実践の方法と技術を磨き続ける
- ④決して絶望しない

社会教育実習の本質的要素！

【役割】

人々の学びに関する研究・教育・実践活動を通じて、大学と現実社会を架橋し、その変革に携わることを専門とする社会活動（変革）家

社会教育実習の本質的要素！

実はもともと日常業務そのものが「実習」

が、それ！

過年度の社養協調査による社会教育実習数等の推計値

項目	概数	備考
■全国養成校(2018年現在)	177	
■全国養成人数/年	1,800	文科省社会教育課試算より推計
■社会教育実習授業設定校(推定)	85	2012社会教育実習実態調査を参考にした推計値
→新課程移行後	170	85校増 ※必修化による
■社会教育実習受講者数(推定)	900(300)	()内は都内及び近郊 全国に占める養成校数より推計
→新課程移行後	1,800(600)	<u>900(300)人増</u> ※必修化による
■新規実習施設・活動及び活用先等の創出		
1)新分野実習先創出の必要数	<u>400(130)</u>	1施設・活動あたり2.25人受入で算出
2)継続的協力先創出の必要数	<u>600(200)</u>	安定的実習を確保する協力施設1.5施設/1実習施設
3)養成人材活用先の新規創出の必要数	<u>1,000(330)</u>	実習先から2.5倍程度の活用先波及展開率を目標に設定

学習活動支援を通じた人づくり・地域づくりの活性化

実習先・活用先
創出

ネットワーク形成

調査
研究開発

実習先
(新規・従来含)

社会教育主事
(会)

活用先
(養成人材就職
先等)

ネットワーク
事務局

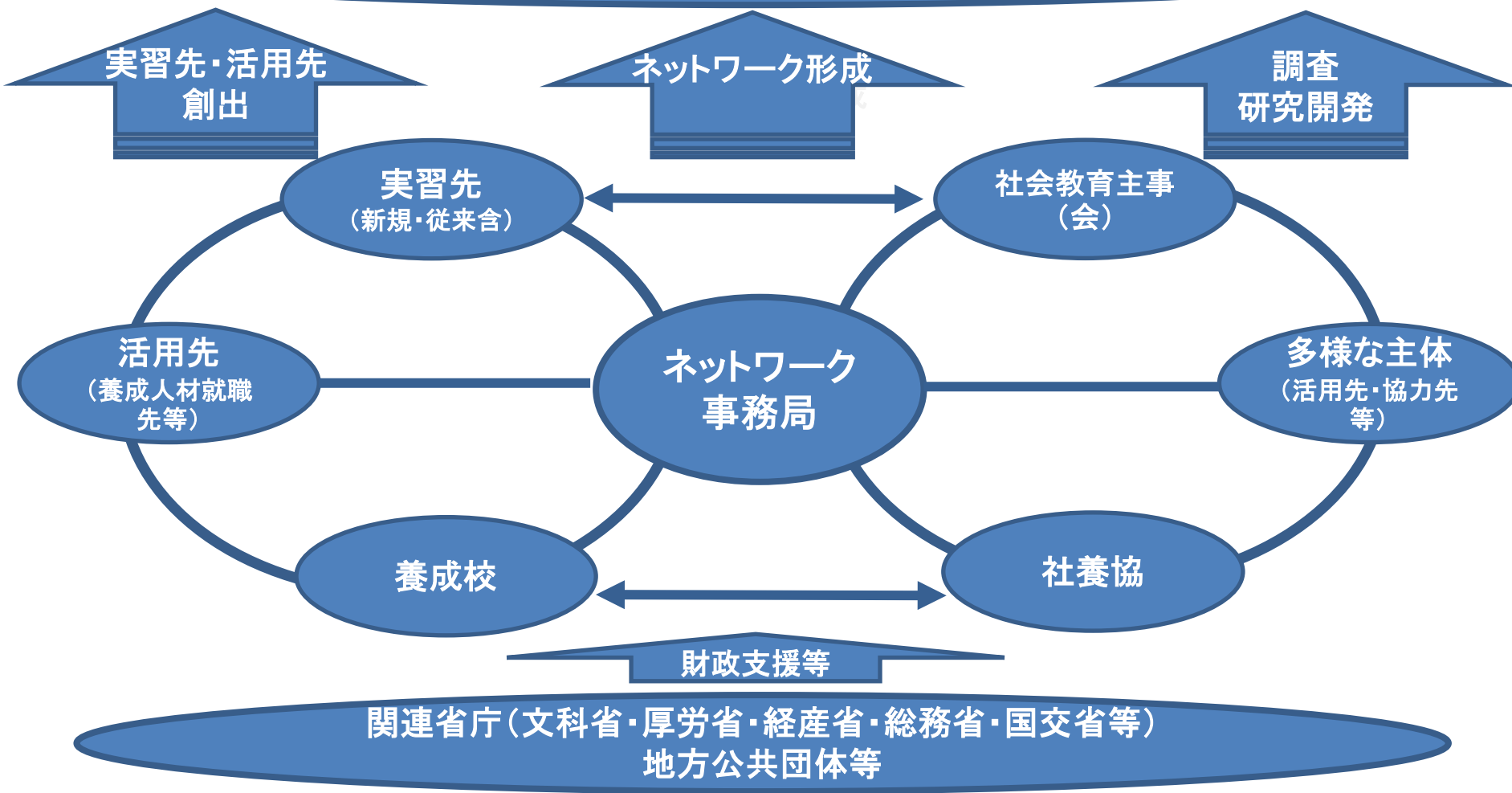
多様な主体
(活用先・協力先
等)

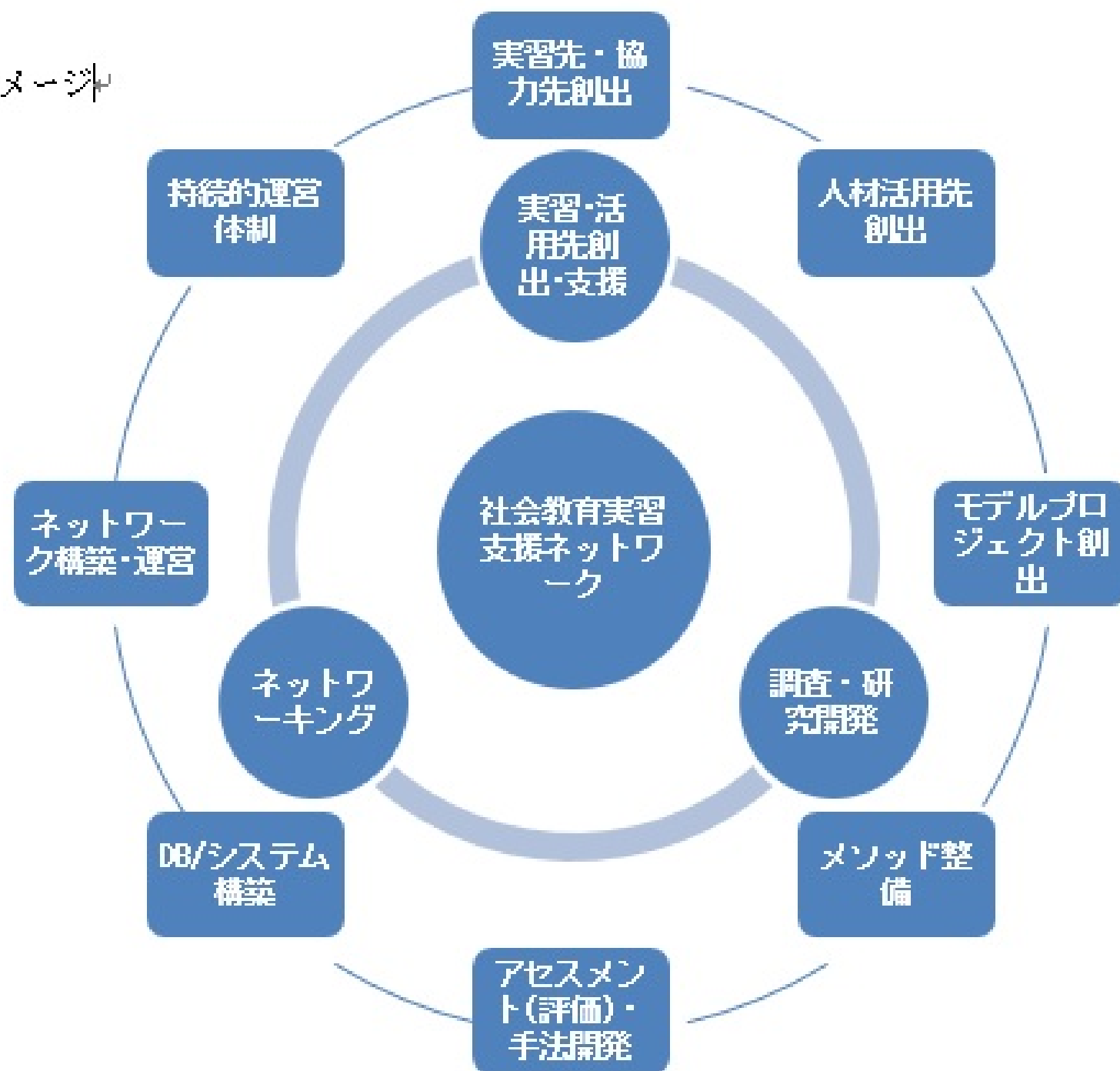
養成校

社養協

財政支援等

関連省庁(文科省・厚労省・経産省・総務省・国交省等)
地方公共団体等





社会教育実習支援ネットワークの基本機能

多様な学びを架橋する社会教育人材養成の高度化と実習先の活性化[↓]



社養協「社会教育実習支援ネットワーク」活動[↓]

① マatching・研修[↓]

- 養成校－実習先のマッ
チング・調整支援[↓]
- 担当者研修の企画・[↓]
提供[↓]

② モデル提供・実践[↓]

- 多様な実習モデルプロ
グラムの提供・実践[↓]
- 「マッティングフェス
タ（仮称）」等イベント
の企画・実施[↓]

③ 研究・開発[↓]

- 事例研究による実習方
法の研究・開発[↓]
- データ研究によるアセ
スメント（評価）の研究
開発[↓]

①マッチング・研修

①教育委員会事務局	社会教育行政に関わる人材育成・学習実践活動等
②教育委員会事務局以外の行政組織	環境、福祉、産業振興、まちづくり等における学習・人材育成業務等
③社会教育・生涯学習・福祉施設等	公民館・公民館類似施設、女性教育施設、青少年教育施設、社会体育施設、児童館等の教育業務
④学校等教育機関	放課後子ども教室、地域未来塾、地域学校協働本部等の地域学校協働活動
⑤NPO・ボランティア団体	個別の活動団体・組織の他中間支援組織等における人材育成・学習実践活動
⑥企業・事業体	企業CSRや地域連携事業、社会教育施設指定管理業務等における人材育成・学習実践活動
⑦その他	①～⑥を組み合わせた連携活動等

②モデル提供・実践

AL (Active Learning)

- ・ 少人数ディスカッション法を中心とした教室内での学習など

SL (Service-Learning)

- ・ 実習先・学生の双方の互惠を志向し、実習先への貢献と学生の学びの実現を企図した参加・体験活動など

PBL (Project Based Learning)

- ・ 実習先や研究室と共に、社会教育現場における具体的プロジェクトを企画立案し実施することを通じた学習実践など

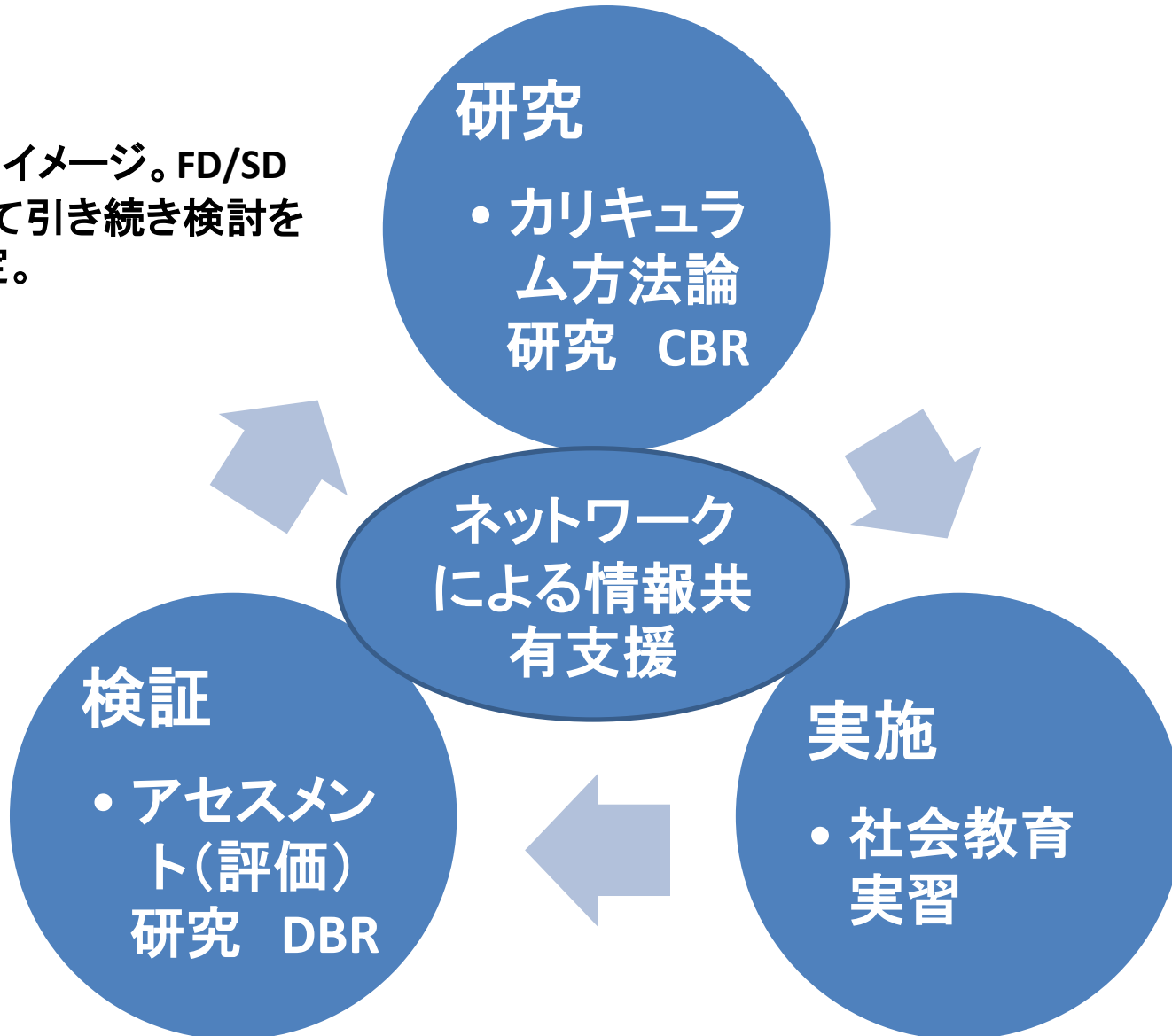
PAR (Participatory Action Research)

- ・ 参加型研究。課外研究や実習後などに、関係性を構築した施設や団体の活動に参加しながら行う研究調査活動など

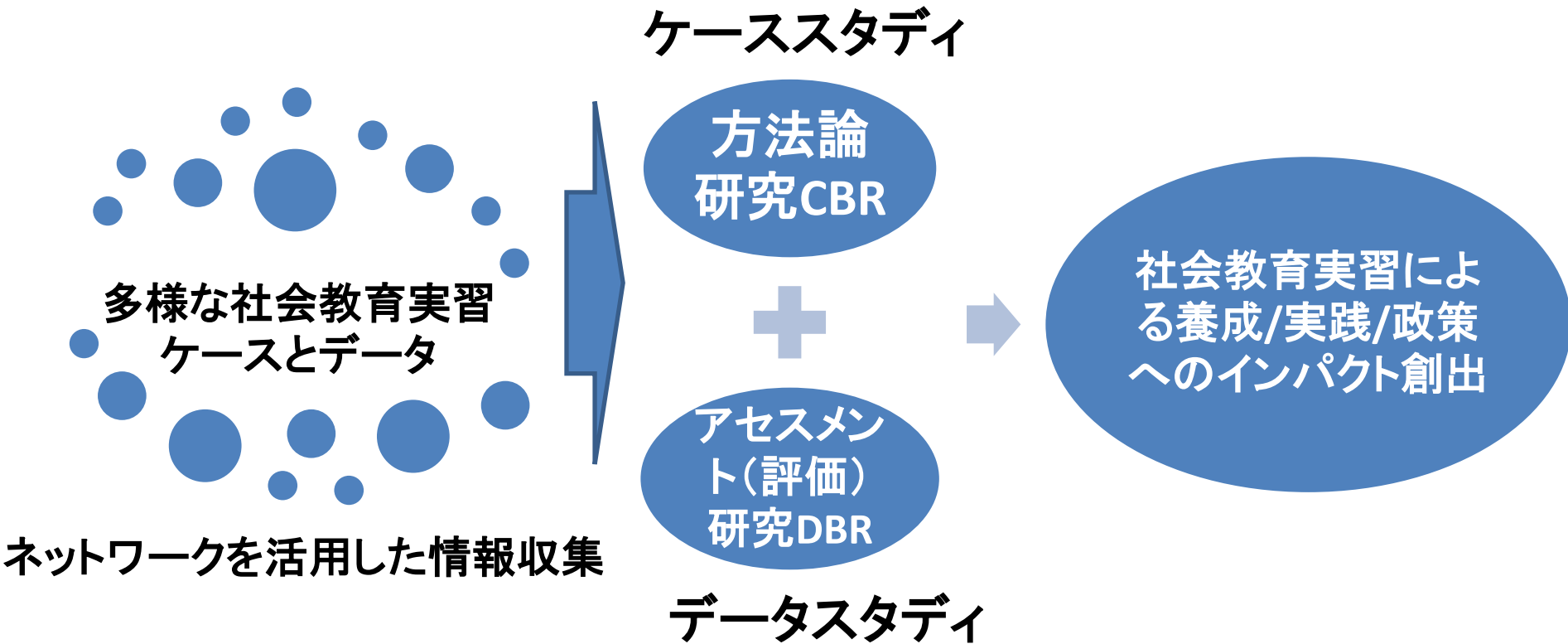
③研究・開発

【社会教育実習と研究・教育・実践のPDCAサイクル】

※図は基本イメージ。FD/SD
活動を通じて引き続き検討を
していく予定。



【ネットワークを活用したケースとデータを基盤とする社会教育実習研究の新たな地平】



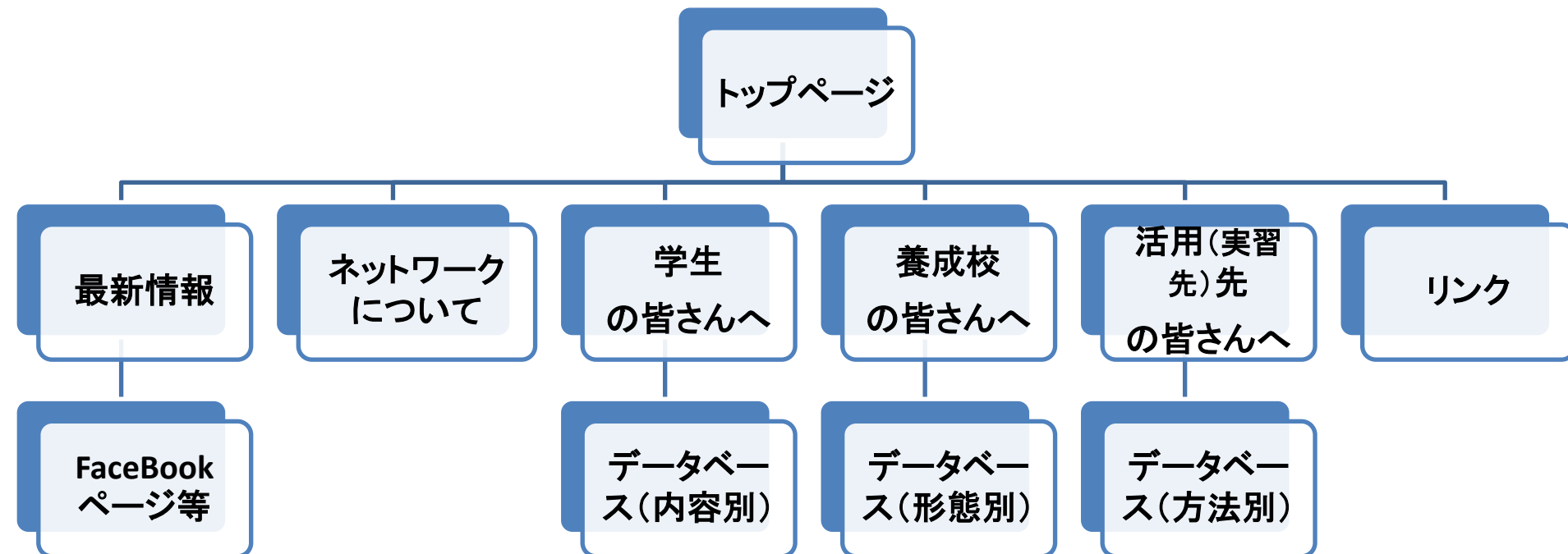
ウェブサイトとデータベースの構築・提供

[「社会教育実習支援ネットワーク」サイト](https://sites.google.com/view/shazissyunet)

<https://sites.google.com/view/shazissyunet>



- ①学生向け : 内容別整理
- ②養成校向け: 形態別整理
- ③実習先向け: 方法別整理

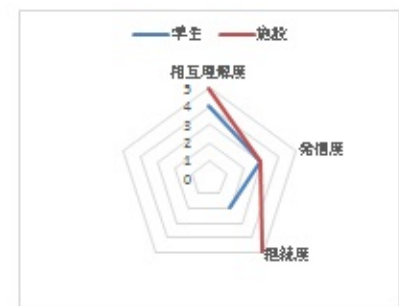
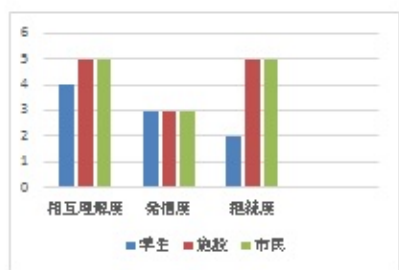


データベース構築・整備の御協力をお願い致します！

- 現在はタイトルと基本情報のみ提供
- 2019年度セキュリティを整備し、詳細情報を会員間で参照できるシステムを構築する予定

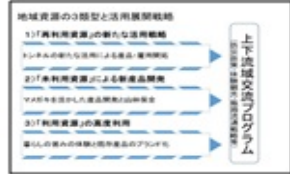
実習先	小金井市公民館 貫井北分館(NPO法人 市民の図書館・公民館こがねい)
実習テーマ	社会教育・生涯学習の現場における経験を通して、地域における人々の学び合いの展開とそれを支える職員・学習支援者の役割について理解を深める
背景・目的・概要	学生・施設側双方の背景・問題意識・目的等 (施設)本施設は、小金井市の委託によりNPO法人市民の図書館・公民館こがねいが運営している。一般的な公民館の機能に加えて、青少年・若者支援に力を入れている。 (学生)大学に最も近い公民館でもあり、こまめに通いたい、ひとつの事業に継続的にかかわりたい、子ども・若者の社会教育に関心があるという学生が希望する。 概要 受講生の関心と状況に応じ、社会教育・生涯学習関連施設等において実習を行う。実習プログラムは実習先と実習生、大学が相談して組み立てる。また、大学でオリエンテーション・事前学習・中間カンファレンス(月1回)・事後報告会(ラウンドテーブル)を行い、実習経験を共同でふりかえって学び合う。実習中は実習日誌に記録し、実習後は報告書・礼状を作成する。
分野	教育・若者支援・地域づくり等
形態	長期継続/60時間以上(5月から9月)/2名(2017年度)
手法	見学・観察、参加・体験、ボランティア支援
プログラム	(事前) 4月から5月にかけて、ガイダンス、実習先希望の確認・調整、事前指導を行う。必要に応じて、実習希望先と面談し、実習先が確定したら実習計画を作成する。 (事中) 実習生それぞれの関心とスケジュールに応じて、下記のような事業・活動に、準備、打ち合わせ、受付、講座中の補助、参加、振り返り、片付け、POPづくりなどを通して関わった。 陶芸入門教室 認知症カフェ 進路就活講座「失敗・挫折を武器にする基本の就活講座」 子育て・子育て支援「親子手品教室」「ものづくり教室」消しゴムハンコ 健康づくり講座「笑いヨガで暑い夏を笑い飛ばそう」 若者コーナー「きたまちスクール」話し合いがまとまらない、その時あなたは…」 若者コーナー「世代間交流の推進 落語体験会」 男女共同参画講座「女性の働き方講座」 高齢者学級はなみずき学級 市民講座「航空の仕事を知る」 図書館・公民館連携事業、ビブリオ大会 若者による自主講座準備会、第4回貫井北センターまつり実行委員会 等 (事後) (事中続き) 実習中は、月1回大学でカンファレンスを行う。さまざまな実習先に通う受講生が、実習の様子やそこでの気づきや悩みなどを報告し、学生と教員で聴き合い、それぞれの見方を出し合う。 (事後) 実習日誌に基づき、実習報告書を作成する。8月には、社会教育演習受講生と、公開講座「コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座」(現職研修)を受講する職員・実務者などと合同で行うラウンドテーブルに参加し、少人数のグループで報告する。
方法論上の特記事項	実習先は、学生の関心や学びたいこと、住所などの関心を教員が聞き取り提案する。学生は教員の情報提供に加えて、実習先について過去の受講生の報告書を読んだり、自分で調べたり、実習先と面談したりして実習先を決定する。実習プログラムは、実習期間中の公民館事業から、学生の関心・スケジュールや公民館の要望をすり合わせ、決定する。

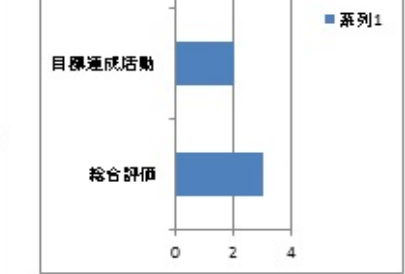
成果	(学生) - 様々な世代を対象とした講座に触れることで対象世代別の講座の特徴などが見えた - 息子に対する母親の気持ちを語られることが多く、自身の生活を見直したり、将来についてもより深く考えるきっかけとなった。 - 貫井北公民館で行われる学習活動を通し、人と人とのつながりが生まれることや、学習活動を通して地域住民の生活の充実度を高めることなど、「社会教育」と「地域づくり」の関係がわかってきた。 (受入先) - 地元大学生の参加によって、おとなの利用者・参加者にとっては異世代交流が生まれ、活気づく。 - 若者コーナーの活動などについては、参加者や企画者、運営者として関わってもらえることができる。実習後も継続して活動に参加することを期待している。 (その他) - 実習後も、YAサポーターや若者講座の企画運営スタッフなどといった形で、継続的に活動を続ける学生が多く、中には卒業後も継続する場合がある。
----	--



実施イメージ	若者 - 若者コーナー講座 - 自主講座準備会 高齢者 - 認知症カフェ - 高齢者学級 女性 - 男女共同参画講座 - 子育て・子育て支援講座
資料・写真等	
実施主体関係情報	東京学芸大学 社会教育実習 I

実習先	荒川ビジョン推進協議会(埼玉県秩父市)28年度
目的・テーマ	「学び」で郷土秩父・東京間荒川流域の連携プログラムの検討 自然・文化・歴史に光を当てる上下流域交流の可能性・秩父市大滝地区現地調査から
目的・概要	受講学生・実習先の問題意識・背景・目的等 地域活性化の活動に協力し、上流域(秩父)と下流域(都心)の連携による地域再生を目指す。次の4観点に着目し、上下流域連携・地域活性化に資する交流メニューを検討した。①地場産業育成、②食文化、③自然体験学習、④歴史 概要 秩父市大滝地区における地域資源利用調査・活動に東京農業大学農山村支援センターメンバーとともに外部参加者として協力することを通して、上流域(秩父)と下流域(都心)の連携・活性化に寄与する交流プログラムの検討を行った。地域活性化の軸として①地場産業育成、②食文化、③自然体験活動、④山やダムなど歴史的資源の活用といった4つの観点に着目して上下流域連携、地域活性化の可能性を考察した。
分野	教育・環境・まちづくり その他()
形態・期間・人数	長期継続及び現地活動3泊4日間/人数4人
方法	PBL・AR
プログラム	(事前) 6月 平成28年度荒川ビジョン推進協議会出席 7月 事前調査・資料収集 現地調査のための諸調整 (事中) 8月大滝地区現地調査 1日目:8月23日 現地入り。秩父市大滝支所にて地区概要についての説明を受ける。 2日目:8月24日 山村資源保全への利用を目的とした未利用トンネル整備。 東京農業大学農山村支援センターのメンバーを中心として、大滝地区を流れる大血川河畔に位置するトンネル整備作業を実施。作業内容として①土壌作り、②足場作り、③橋の作成を実施。 3日目:8月25日 トンネル整備作業及び周辺山林におけるマダガスカの賦存量調査。 トンネル作業を続けるとともに、薪の美を収集するための薪の振返、マダガスカの調査(本数、木の状態、実用化)を行った。 4日目:8月26日 集落において郷土食・伝統野菜に関する取材とヒアリング。 地区内の集落に赴き、食文化や集落に関する聞き取り調査を実施。 (事後) 調査・実践活動を通して、秩父の上流域と都市部の下流域をつなげるプログラムとして、4つの観点(①地場産業育成、②食文化、③自然体験学習、④歴史)から考察し、提案書として取りまとめ報告した。以下のプロセス。 8～10月 現地調査結果の取りまとめ 10月 聖島区生涯学習施設「みらい館大町」での研究報告と都市部住民の意見収集 11月 大正大学学園祭「鴨台祭」での研究報告と都市部住民・学生の意見収集 12月 報告書作成
方法論上の特記事項	現地協議会団体や東京農業大学農山村支援センターとの連携により実施。各団体のミッションや事業の中で、役割と機能を位置づけを行い、当研究室は、学習・実践を通じた、実習的なプログラムの開発を行うという役割で、PBL型の学習及び調査・研究開発活動を行った。

成果	(学生) 参加者それぞれが現地での調査・研究に参画することを通して、自分に関心のある分野でプロジェクトを構想することができた。また地域に提案を還元することができた。以上を通して、専門分野への理解を深めると共に、地域への愛着を高め、また自己達成感も味わうことができた。 (受入先) 地域の地域づくり会議にて登壇となっている交流を軸としたプログラムの促進につながった。またプログラム検討と合わせて、地域活動フィールドの整備にも寄与してもらうことができ、新たな地域づくり活動拠点が生まれた。 (その他、地域住民、連携先等) 東京農業大学が進める農山村関係政策事業の推進に寄与。3年間通じて、事業目標を達成するにあたっての初動の取組みに貢献した。
実施イメージ	支所・支店での結果説明と検討 定例会と産品販売トンネル整備作業 里山調査・マダガスカサンプリング作業 
資料・写真等	各拠点からの学習プログラムの作成 ①地場産業育成(左上) ②食文化(左下) ③自然体験学習(右上) ④歴史(右下)    
実施主体関係情報	東京農業大学農山村支援センター http://nounsanson.jp/ 大正大学出川真也研究室 https://degawaken.com/



今後のネットワーク運営コンテンツ上の検討課題

①マッチングとPBLへの展開・応用

実習先・活用先ニーズ・学生ニーズ(および教員ニーズ)のマッチング、受入先との協働プロジェクト等への活用促進等

②リスクマネジメント(安全管理・ハラスメント防止等)対策

新規参入の実習先等の多様な分野拡大への対応等

③研修プログラムの開発/提供

協働のための実習/活用先・養成校間の相互研修活動の構築等

④アセスメント(評価)方法の研究開発

実習先・活用先・地域・学生・教員の成果の可視化等

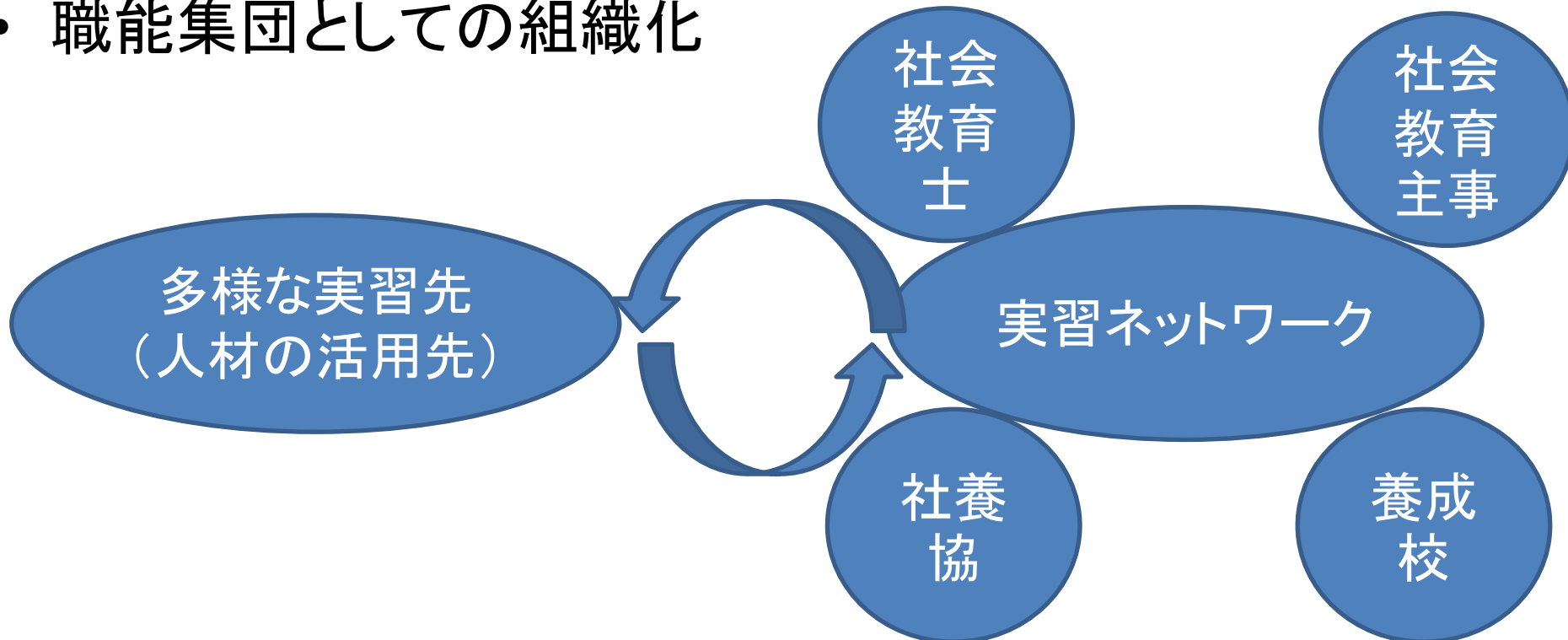
危機と試練

- ボトムアップ型の学びが展開することに対する警戒感と試練の存在
- 社会教育課程の体制・権限に介入し、意図的に受講ニーズを下げて、課程廃止に至らしたと推察される事案も有り(T大の事案)

ネットワークの実装戦略

社会教育の権利・権限を拡張する戦略的行動が求められる

- ・ 首長部局連携、地域学校連携、官民パートナーシップ (PPP)との接合ー公立大学への講座開設の推進を一
- ・ 職能集団としての組織化



実践行動学問としての3つの研究の 継続的・発展的展開を

現代地域社会的背景とニーズを踏まえつつ、以下の3研究を推進しながら実装戦略を行っていくことが必要

- 社会教育の機能と役割に関する研究
- 手法・方法・ツールの開発・提供に関する研究
- 成果の可視化に関する研究

おわりに

- 今こそ、
社会教育人材養成家は、
大学の使命と社会教育について、
その試練と期待とに命がけで向き合い、
連帯して、行動すべきとき！
- その連帯のよすがとして「社会教育実習ネットワーク」の社会実装に御協力ください。

ネットワークに参加するには

- ・ 社養協にご加入ください
機関会員・個人会員

社養協ホームページでは、研究会の案内や報告、社会教育主事養成制度の見直しに関する情報などを随時更新して掲載しています

The screenshot shows the homepage of the National Society Education Staff Training Research Network Association (Shoyakukai). The header includes the organization's name in Japanese and English, along with contact information: 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1, 東京学芸大学 総合教育学系 倉持伸江研究室気付, TEL & FAX 042-329-7353. A navigation bar contains links to トップページ (Top Page), 社養協ニュース (Shoyakukai News), アーカイブ (Archive), 出版物 (Publications), and 社養協とは (About Shoyakukai). The main content area features a tree icon and a welcome message: 全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）のホームページへようこそ。 Below this, a blue box states: 社養協では、主に次のような事業を行います。 (At Shoyakukai, we mainly carry out the following activities.) This is followed by a list of activities: 社会教育職員養成の実態調査及び情報交換・連絡協議 (Survey of the actual situation of social education staff training and information exchange/communication agreement), 社会教育職員養成にかかわる理論的研究 (Theoretical research related to social education staff training), 社会教育職員養成機関における教育課程の研究 (Research on the education curriculum in social education staff training institutions), 社会教育職員としての専門性の研究 (Research on the specialization of social education staff), and 関連機関との連絡協議 (Communication agreement with related organizations). Another section titled 主な活動としては、下記を行っています。 (Main activities are as follows) lists: 研究大会および定例研究会の開催 (Holding of research conference and regular research meeting), 紀要『社会教育職員研究』の刊行 (Publication of the journal 'Research on Social Education Staff'), 「社養協通信」の発行 (Issuance of 'Shoyakukai Communication'), and 社会教育関係職員の実践交流の場「語らいの広場」の開催 (Holding of a field for practical exchange of social education related staff 'Urairi no Hirobata'). On the right side, there is an 'Information' section with a tree icon, titled 社会教育実習支援ネットワーク (Social Education Practice Support Network), and a link to 社会教育関係職員公募情報 (Social Education Related Staff Recruitment Information). At the bottom, there is a 'News' section with a tree icon and the text 新着情報 (New Information).

全国社会教育職員養成研究連絡協議会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学 総合教育学系 倉持伸江研究室気付
TEL & FAX 042-329-7353

トップページ 社養協ニュース アーカイブ 出版物 社養協とは

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）のホームページへようこそ。

社養協では、主に次のような事業を行います。

社会教育職員養成の実態調査及び情報交換・連絡協議
社会教育職員養成にかかわる理論的研究
社会教育職員養成機関における教育課程の研究
社会教育職員としての専門性の研究
関連機関との連絡協議

主な活動としては、下記を行っています。

- ・ 研究大会および定例研究会の開催
- ・ 紀要『社会教育職員研究』の刊行
- ・ 「社養協通信」の発行
- ・ 社会教育関係職員の実践交流の場「語らいの広場」の開催

Information
社会教育実習支援ネットワーク

社会教育関係職員公募情報

社会教育主事有資格者、その他の学習支援職の公募情報
随時更新

News 新着情報